

社会福祉法人 福田会 週次報告書

2023年4月25日 / Vol. 043



ご支援総額

2023年4月20日までの寄付総額

121,788,335 円

寄付金使用総額

3263470.77 zł (約9790万円)

4/10(月)～4/23(日)の期間中の寄附金使用額

8141.90 zł (約24万円)

4月10日(月)～4月23日(日)の支援活動

食材支援 (毎週金曜日)

一人あたり50złの予算を設け、1週間分の昼食用食材の購入を支援。

4月14日(金) 27家族が参加 合計 3589.56 zł (約10万8千円)

4月21日(金) 26家族が参加 合計 3542.63 zł (約10万6千円)

ミサンガ作り (週二回)

日本の支援者の方へお渡しするお礼の品として、避難民の方と週2回のミサンガ作りを実施。

小さな男の子も参加し、他の参加者の助けを借りながら一生懸命ミサンガを編んでいた。



ウクライナ避難民支援に関する報告会

4月15日(土)、資料館「人道の港敦賀ムゼウム」で、福田会ボランティアとしてクラクフでウクライナ支援活動に参加した学生が、活動報告を行った。

支援活動に参加して、息の長い支援がいまだに必要とされ続けていることが良く分かったと語った。

さらに、今後の課題として活動継続のための金銭的・人的資源が不足しつつあることを挙げ、困難な状況にある避難民の方々に引き続き関心を寄せ続けてもらいたいと訴えた。



写真提供：人道の港敦賀ムゼウム



現地の動向

ビジネスポーランド語の需要

ウクライナ侵攻開始から1年が過ぎ、約150万人いると言われているポーランドに避難したウクライナ人の6割以上が、何らかの職に就いている。

一方で、母国で就職していた職業と同じレベルの職に就けている人はごく少数に限られており、大多数がホスピタリティ業界（ホテル・レストラン等）や清掃、その他の単純労働に就かざるを得ない現状である。

大きな理由として挙げられるのが言語力不足だ。ポーランドでは就職をする際に避難民というステータスが優遇される場合は少なく、スキルで判断がなされる場合が多い。日常会話程度のポーランド語を話すことができてもビジネスで使用可能なレベルのポーランド語習得にまで至っていない人も多く、また日常会話以上の語学力をサポートしている団体もまだ少ないと言われている。

緊急支援から自立支援へと、ポーランド国内の支援が変遷していく中で、ビジネスポーランド語教育の必要性に対する声が多く挙げられている。

写真は、昨年キエルツェ市で実施された避難民向けの無料のポーランド語レッスンの様子。

福田会ポーランド支部はキエルツェ市と連携し、学習用備品を提供した。

